

「特に慎重な投与を要する薬物のリスト」に該当する薬剤の一般名と医薬品コード一覧

<コード利用上の留意点>

2017年2月時点で薬価収載されている医薬品を対象とした。ただし、2017年3月末収載削除が予定されていたトリプロリジンは除外した。  
成分がWHO ATCに登録されていない場合は、上位の医薬品クラス(4th level, chemical subgroup)化学的分類)を記載した。  
感冒薬など短期使用の医薬品、注射剤、外用剤、は除外した。  
ガイドラインに掲載されたインスリンは、スライディングスケールによる投与方法に注意を払うという意図のため、コード化作業から除外した。  
配合剤のうち成分の組み合わせを表現したATCコードの特定ができない場合は※として、別途示した、

分類	薬物(クラスまたは一般名)	代表的な一般名(すべて該当の場合は無記載)	対象となる患者群(すべて対象となる場合は無記載)	推奨される使用法	該当する一般名(2017年2月)	薬価基準収載医薬品コード	ATCコード
抗精神病薬	定型抗精神病剤	定型抗精神病薬(ハロペリドール、クロルプロマジン、レボメプロマジンなど)	認知症患者全般	定型抗精神病薬の使用はできるだけ控える。非定型抗精神病薬は必要最小限の使用にとどめる。ブチロフェノン系(ハロペリドールなど)はパーキンソン病に禁忌。オランザピン、クエチアピンは糖尿病に禁忌。	オキシペルチン	1179011	N05AE01
					クロカブラミン塩酸塩	1179030	N05AX
					クロルプロマジンフェノールフタリン酸塩	1171005	N05AA01
					クロルプロマジン塩酸塩	1171001	N05AA01
					スピペロン	1179015	N05AD
					スルトブリド塩酸塩	1179032	N05AL02
					ゾテピン	1179024	N05AX11
					チアブリド塩酸塩	1190004	N05AL03
					チミペロン	1179026	N05AD
					ネモナブリド	1179036	N05AL
					ハロペリドール	1179020	N05AD01
					ピバンペロン(フロロピバミド塩酸塩)	1179006	N05AD05
					ピモジド	1179022	N05AG02
					フルフェナジンマレイン酸塩	1172009	N05AB02
					プロクロルペラジンマレイン酸塩	1172010	N05AB04
					プロペリシアジン	1172005	N05AC01
					プロムペリドール	1179028	N05AD06
					ベルフェナジン	1172006 1172007	N05AB03
					ベルフェナジンフェンジゾ酸塩	1172004	N05AB03
					ベルフェナジンマレイン酸塩	1172013	N05AB03
モサブラミン塩酸塩	1179035	N05AX10					
レボメプロマジンマレイン酸塩	1172014	N05AA02					
抗精神病薬	非定型抗精神病剤	非定型抗精神病薬(リスペリドン、オランザピン、アリピプラゾール、クエチアピン、ペロスピロンなど)	認知症患者全般		アセナピンマレイン酸塩	1179056	N05AH05
					アリピプラゾール	1179045	N05AX12
					オランザピン	1179044	N05AH03
					クエチアピンフマル酸塩	1179042	N05AH04
					クロザピン	1179049	N05AH02
					バリペリドン	1179053	N05AX13
					ブロナンセリン	1179048	N05AX
					ペロスピロン塩酸塩水和物	1179043	N05AX
リスペリドン	1179038	N05AX08					
睡眠薬	ベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬	フルラゼパム、ハロキサゾラム、ジアゼパム、トリアゾラム、エチゾラムなどすべてのベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬		長時間作用型は使用するべきでない。トリアゾラムは健忘のリスクがあり使用するべきでない。ほかのベンゾジアゼピン系も可能な限り使用を控える。使用する場合最低必要量をできるだけ短期間使用に限る	アルプラゾラム	1124023	N05BA12
					エスタゾラム	1124001	N05CD04
					エチゾラム	1179025	N05BA19
					オキサゾラム	1124013	N05BA
					クアゼパム	1124030	N05CD10
					クロキサゾラム	1124014	N05BA22
					クロチアゼパム	1179012	N05BA21
					クロラゼパム酸二カリウム	1124015	N05BA05
					クロルジアゼポキシド	1124028	N05BA02
					ジアゼパム	1124017	N05BA01
					トフィソパム	1124026	N05BA23
					トリアゾラム	1124007	N05CD05
					ニトラゼパム	1124003	N05CD02
					ニメタゼパム	1124004	N05BA
					ハロキサゾラム	1124005	N05CD

分類	薬物(クラスまたは一般名)	代表的な一般名(すべて該当の場合は無記載)	対象となる患者群(すべて対象となる場合は無記載)	推奨される使用法	該当する一般名(2017年2月)	薬価基準収載医薬品コード	ATCコード
睡眠薬	ベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬	フルラゼパム、ハロキサゾラム、ジアゼパム、トリアゾラム、エチゾラムなどすべてのベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬		長時間作用型は使用するべきでない。トリアゾラムは健忘のリスクがあり使用するべきでない。ほかのベンゾジアゼピン系も可能な限り使用を控える。使用する場合最低必要量をできるだけ短期間使用に限る	フルジアゼパム フルタゾラム フルトラゼパム フルニトラゼパム フルラゼパム塩酸塩 フロチゾラム フロマゼパム	1124019 1124024 1124027 1124008 1124002 1124009 1124020	N05BA17 N05BA N05BA N05CD03 N05CD01 N05CD09 N05BA08
		フルラゼパム、ハロキサゾラム、ジアゼパム、トリアゾラム、エチゾラムなどすべてのベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬		長時間作用型は使用するべきでない。トリアゾラムは健忘のリスクがあり使用するべきでない。ほかのベンゾジアゼピン系も可能な限り使用を控える。使用する場合最低必要量をできるだけ短期間使用に限る	メキサゾラム メダゼパム リルマザホン塩酸塩水和物 ロフラゼブ酸エチル ロラゼパム ロルメタゼパム	1124025 1124021 1129006 1124029 1124022 1124010	N05BA N05BA03 N05CD N05BA18 N05BA06 N05CD06
睡眠薬	非ベンゾジアゼピン系睡眠薬	ゾピクロン、ゾルピデム、エソピクロン		漫然と長期投与せず、減量、中止を検討する。少量の使用にとどめる	エソピクロン ゾピクロン ゾルピデム	1129010 1129007 1129009	N05CF04 N05CF01 N05CF02
抗うつ薬	三環系抗うつ薬	アミトリプチン、クロミプラミン、イミプラミン		可能な限り使用を控える	アミトリプチン塩酸塩 アモキサピン イミプラミン塩酸塩 クロミプラミン塩酸塩 ドスレピン塩酸塩 トリミプラミンマレイン酸塩 ノルトリプチン塩酸塩 ロフェプラミン塩酸塩	1179002 1179001 1174006 1174002 1179027 1174005 1179004 1174004	N06AA09 N06AA17 N06AA02 N06AA04 N06AA16 N06AA06 N06AA10 N06AA07
		など、すべての三環系抗うつ薬					
抗うつ薬	SSRI	パロキセチン、セルトラリン、フルボキサミン、エシタロプラム	消化管出血	SSRIは慎重投与	エシタロプラムシュウ酸塩 パロキセチン塩酸塩水和物 フルボキサミンマレイン酸塩 塩酸セルトラリン	1179054 1179041 1179039 1179046	N06AB10 N06AB05 N06AB08 N06AB06
スルピリド	スルピリド	スルピリド		可能な限り使用を控える。使用する場合には50mg/日以下に、褐色細胞腫にスルピリドは使用禁忌	スルピリド	1179016 2329009	N05AL01
抗パーキンソン病薬	抗パーキンソン病治療薬(抗コリン薬)	トリヘキシフェニジル、ビペリデン		可能な限り使用を控える。代替薬:L-Dopa	トリヘキシフェニジル塩酸塩 ビペリデン塩酸塩 ピロヘプチン塩酸塩 プロフェナミンヒベンズ酸塩 プロフェナミン塩酸塩 プロメタジン塩酸塩 プロメタジンヒベンズ酸 プロメタジンメチレンジサリチル酸塩 マザチコール塩酸塩水和物	1169001 1169002 1162001 1169003 1163002 1163001 4413002 4413002 4413002 1169004	N04AA01 N04AA02 N04AA N04AA05 N04AA05 R06AD02 R06AD02 R06AD02 N04AA10
		ブレドニゾロン、メチルブレドニゾロン、ベタメタゾンなど	慢性安定期のCOPD患者	使用すべきでない増悪時、Ⅲ期以上の症例や入院管理が必要な患者で、ブレドニゾロン40mg/日を5日間投与が奨められる	コルチゾン酢酸エステル デキサメタゾン トリアムシノロン ヒドロコルチゾン ブレドニゾロン ベタメタゾン メチルブレドニゾロン ベタメタゾン d-クルルフェニラミンマレイン酸塩	2452001 2454002 2454003 2452002 2456001 2456002 2454004 2456003 2459100	H02AB10 H02AB02 H02AB08 H02AB09 H02AB06 H02AB01 H02AB04 ※

分類	薬物(クラスまたは一般名)	代表的な一般名(すべて該当の場合は無記載)	対象となる患者群(すべて対象となる場合は無記載)	推奨される使用法	該当する一般名(2017年2月)	薬価基準収載医薬品コード	ATCコード					
抗血栓薬(抗血小板薬、抗凝固薬)	抗血小板薬	アスピリン、クロピドグレル、シロスタゾール	心房細動患者	原則として使用せず、抗凝固薬の投与を考慮すべき	アスピリン	3399007	B01AC06					
					クロピドグレル硫酸塩	3399008	B01AC04					
					シロスタゾール	3399002	B01AC23					
	アスピリン	アスピリン	上部消化管出血の既往のある患者	可能な限り使用を控える。代替薬として他の抗血小板薬(クロピドグレルなど)を使用する場合は、プロトンポンプ阻害薬やミソプロストールなどの胃保護薬を併用(適応症に注意)	チカグレロル	3399011	B01AC24					
					チクロピジン塩酸塩	3399001	B01AC05					
					プラスゲレル塩酸塩	3399009	B01AC22					
複数の抗血栓薬(抗血小板薬、抗凝固薬)の併用				アスピリン ジヒドロキシアルミニウムアミノアセタート 炭酸マグネシウム	3399100	※						
				アスピリン クロピドグレル硫酸塩(再掲)	3399101	※						
				アスピリン ランソプラゾール	3399102	※						
抗血栓薬(抗血小板薬、抗凝固薬)の併用	複数の抗血栓薬(抗血小板薬、抗凝固薬)の併用			長期間(12ヶ月以上)の使用は原則として行わず、単独投与とする	アスピリン(再掲)	1143001	N02BA01					
					アスピリン ジヒドロキシアルミニウムアミノアセタート 炭酸マグネシウム(再掲)	3399100	※					
					アスピリン クロピドグレル硫酸塩(再掲)	3399101	※					
					アスピリン ランソプラゾール(再掲)	3399102	※					
					アスピリン	3399007	B01AC06					
					クロピドグレル硫酸塩	3399008	B01AC04					
					シロスタゾール	3399002	B01AC23					
					チカグレロル	3399011	B01AC24					
					チクロピジン塩酸塩	3399001	B01AC05					
					プラスゲレル塩酸塩	3399009	B01AC22					
抗血栓薬(抗血小板薬、抗凝固薬)の併用	複数の抗血栓薬(抗血小板薬、抗凝固薬)の併用			長期間(12ヶ月以上)の使用は原則として行わず、単独投与とする	アスピリン ジヒドロキシアルミニウムアミノアセタート 炭酸マグネシウム	3399100	※					
					アスピリン クロピドグレル硫酸塩(再掲)	3399101	※					
					アスピリン ランソプラゾール	3399102	※					
					アピキサパン	3339004	B01AF02					
					エドキサバントシル酸塩水和物	3339002	B01AF03					
					ダビガトランエテキシラートメタンスルホン塩酸	3339001	B01AE07					
					リパーロキサパン	3339003	B01AF01					
					ワルファリンカリウム	3332001	B01AA03					
					ジギタリス	ジゴキシン	ジゴキシン	>0.125mg/日での使用	0.125mg/日以下に減量する。高齢者では0.125mg/日以下でもジギタリス中毒のリスクがあるため、血中濃度や心電図によるモニターが難しい場合には中止を考慮する	ジゴキシン	2113003 2113004	C01AA05
					利尿薬	ループ利尿薬	フロセミドなど		必要最小限の使用にとどめ、循環血漿量の減少が疑われる場合、中止または減量を考慮する。	アゾセミド	2139008	C03CA
トラセミド	2139009	C03CA04										
					ピレタニド	2139007	C03CA03					
					ブメタニド	2139004	C03CA02					
					フロセミド	2139005	C03CA01					
	アルドステロン拮抗薬	スピロラクトン、エプレレノン		適宜電解質・腎機能のモニタリングを行う。特にK高値、腎機能低下の症例では少量の使用にとどめる	エプレレノン スピロラクトン	2149045 2133001	C03DA04 C03DA01					
β遮断薬	非選択的β遮断薬	プロプラノロール、カルテオロール	気管支喘息、COPD	気管支喘息やCOPDではβ1選択的β遮断薬に限るが、その場合でも適応自体を慎重に検討する。カルベジローラは、心不全合併COPD例で使用可(COPDの増悪の報告が少なく心不全への有用性が上回る。気管支喘息では禁忌)	アルブレノロール塩酸塩	2123002	C07AA01					
					アロチノロール塩酸塩	2123014	C07AA					
					カルテオロール塩酸塩	2123005 2149025	C07AA15					
					ナドロール	2123015	C07AA12					
					ニブラジロール	2149021	C07AA					
					ピンドロール	2123009 2149011	C07AA03					
					プフェトロール塩酸塩	2123006	C07AA					
					プロプラノロール塩酸塩	2123008 2149014	C07AA05					
α遮断薬	受容体サブタイプ非選択的α1受容体遮断薬	テラゾシン、ブラゾシン、ウラピジル、ドキサゾシンなど		可能な限り使用を控える。代替薬：(高血圧)その他の降圧薬(前立腺肥大症)シロドシン、タムスロシン、ナフトピジル、植物製剤など	ウラピジル	2149020	C02CA06					
					テラゾシン塩酸塩水和物	2149023	G04CA03					
					ドキサゾシンメシル酸塩	2149026	C02CA04					
					ブナゾシン塩酸塩	2149015	C02CA					
					ブラゾシン塩酸塩	2149002	C02CA01					

分類	薬物(クラスまたは一般名)	代表的な一般名(すべて該当の場合は無記載)	対象となる患者群(すべて対象となる場合は無記載)	推奨される使用法	該当する一般名(2017年2月)	薬価基準収載医薬品コード	ATCコード	
第1世代H1受容体拮抗薬	H1受容体拮抗薬(第1世代)	すべてのH1受容体拮抗薬(第1世代)		可能な限り使用を控える	d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	4419002	R06AB04	
					アリマジン酒石酸塩	4413003	R06AD01	
					クレマスタチンフマル酸塩	4419008	R06AA04	
					クロルフェニラミンマレイン酸塩	4419001 4419003	R06AB04	
					ジフェンヒドラミン	4411001	R06AA02	
					シプロヘプタジン塩酸塩	4419005	R06AX02	
					ヒドロキシジンハモ酸塩	1179019	N05BB01	
					ヒドロキシジン塩酸塩	1179005	N05BB01	
					プロメタジン塩酸塩(再掲)	4413002	R06AD02 D04AA10	
					プロメタジンヒベンズ酸(再掲)	4413002	R06AD02 D04AA10	
					プロメタジンメチレンジサリチル酸塩(再掲)	4413002	R06AD02 D04AA10	
					ホモクロルシクリジン塩酸塩	4419006	R06AE	
ベタメタゾン d-クロルフェニラミンマレイン酸塩(再)	2459100	※						
H2受容体拮抗薬	H2受容体拮抗薬	すべてのH2受容体拮抗薬		可能な限り使用を控える。特に入院患者や腎機能低下患者では必要最小限の使用にとどめる。	シメチジン	2325001	A02BA01	
					ニザチジン	2325005	A02BA04	
					ファモチジン	2325003	A02BA03	
					ラニチジン塩酸塩	2325002	A02BA02	
					ラフチジン	2325006	A02BA08	
					ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	2325004	A02BA06	
制吐薬	制吐薬	メトクロプラミド、プロクロルペラジン、プロメタジン		可能な限り使用を控える	プロクロルペラジンマレイン酸塩(再掲)	1172010	N05AB04	
					プロメタジン塩酸塩(再掲)	4413002	R06AD02 D04AA10	
					プロメタジンヒベンズ酸(再掲)	4413002	R06AD02 D04AA10	
					プロメタジンメチレンジサリチル酸塩(再掲)	4413002	R06AD02 D04AA10	
メトクロプラミド	2399004	A03FA01						
緩下薬	酸化マグネシウム	酸化マグネシウム	腎機能低下	高用量の使用は避ける。低用量から開始し、血清Mg値をモニターする。血清Mg値上昇時は使用を中止する代替薬:他の作用機序の緩下薬	酸化マグネシウム	2344002 2344009	A02AA02 A06AD02	
糖尿病薬	スルフォニル尿素(SU)薬	クロルプロバミド、アセトヘキサミド、グリベンクラミド、グリメピリド		可能であれば使用を控える。代替薬としてDPP-4阻害薬を考慮	アセトヘキサミド	3961001	A10BB31	
					グリクラジド	3961007	A10BB09	
					グリクロピラミド	3961002	A10BB	
					グリベンクラミド	3961003	A10BB01	
					グリメピリド	3961008	A10BB12	
					クロルプロバミド	3961004	A10BB02	
	トルブタミド	3961006	A10BB03					
	グリメピリド ビオグリタゾン塩酸塩	3969101	A10BD06					
	ビグアナイド薬	ブホルミン、メトホルミン			可能であれば使用を控える。高齢者に対して、メトホルミン以外は禁忌	ブホルミン塩酸塩	3962001	A10BA03
						メトホルミン塩酸塩	3962002	A10BA02
						メトホルミン塩酸塩 アログリブチン安息香酸塩	3969105	A10BD13
	メトホルミン塩酸塩 ビルダグリブチン塩酸塩	3969104	A10BD08					
メトホルミン塩酸塩 ビオグリタゾン塩酸塩	3969100	A10BD05						
チアゾリジン薬	ビオグリタゾン			心不全患者、心不全既往者には使用しない。高齢者では、少量から開始し、慎重に投与する	ビオグリタゾン塩酸塩	3969007	A10BG03	
					ビオグリタゾン塩酸塩 アログリブチン安息香酸塩	3969103	A10BD09	
ビオグリタゾン塩酸塩 グリメピリド(再掲)	3969101	A10BD06						
メトホルミン塩酸塩 ビオグリタゾン塩酸塩(再掲)	3969100	A10BD05						
糖尿病薬	α-グルコシダーゼ阻害薬	アカルボース、ボグリボース、ミグリトール		腸閉塞などの重篤な副作用に注意する	アカルボース	3969003	A10BF01	
					ボグリボース	3969004	A10BF03	
					ミグリトール	3969009	A10BF02	
					ミチグリニドカルシウム水和物 ボグリボース	3969102	※	
	SGLT2阻害薬	すべてのSGLT2阻害薬			可能な限り使用せず、使用する場合は慎重に投与する	イブラグリフロジン L-プロリン	3969018	A10BK
						エンパグリフロジン	3969023	A10BK03
カナグリフロジン水和物	3969022	A10BK02						
ダバグリフロジンプロピレングリコール水和物	3969019	A10BK01						
トホグリフロジン水和物	3969021	A10BK						
ルセオグリフロジン水和物	3969020	A10BK						

分類	薬物(クラスまたは一般名)	代表的な一般名(すべて該当の場合は無記載)	対象となる患者群(すべて対象となる場合は無記載)	推奨される使用法	該当する一般名(2017年2月)	薬価基準収載医薬品コード	ATCコード
インスリン	スライディングスケールによるインスリン投与	すべてのインスリン製剤		高血糖性昏睡を含む急性病態を除き、可能な限り使用を控える	スライディングスケール以外はインスリンは投与する	-	
過活動膀胱治療薬	オキシブチニン(経口)	オキシブチニン		可能な限り使用しない。代替薬として他のムスカリン受容体拮抗薬	オキシブチニン塩酸塩	2590005	G04BD04
	ムスカリン受容体拮抗薬	ソリフェナシン、トルテロジン、フェソテロジン、イミダフェナシン、塩酸プロピベリン、オキシブチニン経皮吸収型		低用量から使用 前立腺肥大症の場合は $\alpha_1$ 受容体遮断薬との併用必要時、緩下剤を併用する	イミダフェナシン ソリフェナシンコハク酸塩 トルテロジン酒石酸塩 フェソテロジンフマル酸塩 プロピベリン塩酸塩	2590013 2590011 2590012 2590015 2590007	G04BD G04BD08 G04BD07 G04BD11 G04BD06
非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)	NSAIDs	すべてのNSAIDs		1. 使用をなるべく短期間にとどめる。 2. 中止困難例では消化管の有害事象の予防にプロトンポンプ阻害薬やミソプロストールの併用を考慮 3. 中止困難例では、消化管の有害事象の予防に選択的COX-2阻害薬の使用を検討(セレコキシブなど) a. その場合も可能な限り低用量を使用 b. 消化管の有害事象の予防にプロトンポンプ阻害薬の併用を考慮	アセメタシン	1145003	M01AB11
					アンピロキシカム	1149030	M01AC
					アンフェナクナトリウム水和物	1147006	M01AB
					イブプロフェン	1149001	M01AE01
					インドメタシン	1145001 1145002	M01AB01
					インドメタシンファルネシル	1145005	M01AB01
					エトドラク	1149032	M01AB08
					エモルファゾン	1148004	N02BG
					オキサプロジン	1149026	M01AE12
					ザルトプロフェン	1149029	M01AE
					ジクロフェナクナトリウム	1147002	M01AB05
					スリンダク	1149015	M01AB02
チアプロフェン酸	1149025	M01AE11					
非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)	NSAIDs	すべてのNSAIDs		1. 使用をなるべく短期間にとどめる。 2. 中止困難例では消化管の有害事象の予防にプロトンポンプ阻害薬やミソプロストールの併用を考慮 3. 中止困難例では、消化管の有害事象の予防に選択的COX-2阻害薬の使用を検討(セレコキシブなど) a. その場合も可能な限り低用量を使用 b. 消化管の有害事象の予防にプロトンポンプ阻害薬の併用を考慮	チアラミド塩酸塩	1148001	N02BG
					ナブメトン	1149027	M01AX01
					ナプロキセン	1149007	M01AE02
					ピロキシカム	1149017	M01AC01
					ブクローム	1149009	M01AX
					ブラノプロフェン	1149010	
					フルフェナム酸アルミニウム	1141004	M01AG03
					フルルビプロフェン	1149011	M01AE09
					プログルメタシンマレイン酸塩	1145004	M01AB14
					メフェナム酸	1141005	M01AG01
					メロキシカム	1149035	M01AC06
					モフェゾラク	1149033	M01AX
ロキソプロフェンナトリウム水和物	1149019	M01AE					
ロルノキシカム	1149036	M01AC05					

【参考】特に慎重な投与を要する薬物のリスト(「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」より)

<対象>

75歳以上の高齢者および75歳未満でもフレイル～要介護状態の高齢慢性期、特に1か月以上の長期投与を基本的な適用対象とする。  
利用対象は、実地医家で、特に非専門領域の薬物療法を対象とする。  
薬剤師、服薬管理の点で看護師も利用対象とする。

<使い方>

- ・「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」のフローチャートに従って使用する。
- ・常に用量調整と注意深い経過観察を行い、薬物有害事象が疑われる場合は減量・中止を検討する。
- ・一般の方が目にして自己中断をしないように十分な指導を行う。
- ・各ステップにおいて、個々の病態と生活機能、生活環境、意思・嗜好などを考慮して、患者・家族への十分な説明と同意のもと、最終的に直接の担当医が判断する。